

犬と家族になるために

犬とお互いストレスなく楽しく
末長く一緒に暮らしていくため
には、家に迎えた後の接し
方が大切です。



もくじ

- ≫ 初めての日の過ごし方
- ≫ 先住犬と仲良くなるために
- ≫ 夜鳴きをした場合の対応
- ≫ 睡眠はたっぷり
- ≫ 良い関係を築くために
- ≫ お子さんをお願いしたいこと
- ≫ いろいろな人と仲良くなろう
- ≫ おトイレの上手な教え方
- ≫ 困った甘噛みの対応方法
- ≫ お散歩デビューの仕方
- ≫ いろいろな物に慣れる練習
- ≫ 困った時はいつでも

犬は私たちが思っている以上に繊細で周りに気を使う数少ない人間と意思疎通できるパートナーです。家族の一員として共に生きて行く、あなたの人生の一部となるべくあなたの元にやって来てくれました。

この冊子ではそんな犬との生活を始めるための最小限の知識をお伝えする為に作りました。ここに書かれている事以外にも求めれば犬の成長と共にいろいろなゲームやトレーニングができるようになると思います。まずはこの冊子を参考に見てください。

大網直子



初めての日の過ごし方

初めて来たお家にドキドキ…。

犬はとっても緊張しています。まずは安心してもらいましょう。

「ここはどこ？」と犬は不安でいっぱいです。犬に安心してもらうためには、なるべく刺激を与えないことが大切です。静かな環境にしてあげて、その子のペースでお家に慣れて行けるようにしてあげてください。

まだ信頼関係が築けていない人から抱っこされるとストレスを感じるものです。ゆっくり時間をかけて仲良くなっていきましょう。

信頼関係が築けるまで避けた方がよいこと

- ・ 面と向かって犬を見つめる
- ・ カメラを至近距離から向ける
- ・ 何度も抱っこする
- ・ 過度に触る(撫でる)



スマホのカメラも至近距離からの撮影はNGです。

先住犬と仲良くなるために

自分のテリトリーに突然やってきた犬に最初は戸惑うものです。

先住犬と新しく迎えた犬が、お互いに悪いイメージが付かないように配慮してあげてください。

最初に会うときは、先住犬のテリトリーいきなり入れてしまうと警戒して吠えたりしてしまう可能性があります。先住犬が普段暮らしていない場所(できれば家の外)で

顔合わせをして、飼い主さんと先住犬、新しい犬と一緒に家に入っていくのが理想的です。

また、犬のベッドやフードボウルなど先住犬が「自分の」と意識しているような場所や物に新しく迎えた犬が無遠慮に近づかないように気を付けてあげてください。



新入りを家族と認めるまでは数週間以上かかるのが普通です。

無理に仲良くさせようとはしないでください。

ゆっくり良い関係を築くのを飼い主としてサポートしてあげると良いでしょう。

夜鳴きをした場合の対応

なぜ鳴いているの？

子犬の時は、親犬や同腹犬と一緒に寝ているのが普通です。

ひとりになると子犬は本能的に身の危険を感じて鳴くものです。



犬を迎えたばかりの時期は寂しさから夜に吠えてしまうことがあります。お家に慣れるまではそばで寝てあげて声をかけたり、オヤツを少しずつあげたりして、安心感を与えてあげてください。

「吠えているのにオヤツをあげてもいいの？」

「いつまでもひとりで寝られない犬になってしまわない？」

まずは犬の不安感や寂しさを解消してあげることが最優先です。

そういったストレスが無くなってから、徐々にひとりで落ち着いて寝る時間を作ってあげましょう。

睡眠はたっぷり

1日 17 時間の睡眠が適切とも言われています。

成犬を対象にした調査で、睡眠が 17 時間だとストレスを示すホルモン値が最も低くなったという結果が発表されています。

さらに子犬は成犬よりも長い睡眠時間が必要です。短いとストレスにもつながりますので、睡眠はたっぷり取らせてあげましょう。

怖がりな子は落ち着いて眠れる環境を作ってあげましょう。

また、子犬は慣れて来ると、構ってあげるといつまでも遊んでくれます。元気そうに見えても睡眠不足になるとストレスが溜まりますので、飼い主さんが意識して子犬を休ませてあげてください。



寝姿が可愛くて触りたくてもグッと我慢して寝かせてあげましょう。

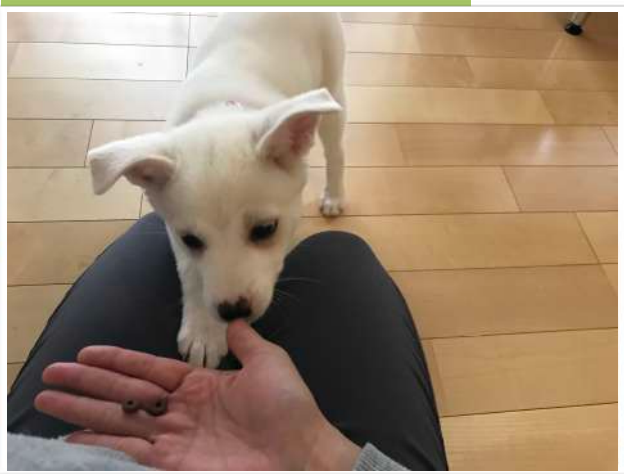
良い関係を築くために



手のひらにフードを乗せて、犬が来るまで待ちましょう。



美味しい物が乗っていると犬が認識してきたら、手を自分の身体のそばにもってきてみましょう。



犬が自ら寄ってきてくれるようオヤツで誘導するのがポイント！

ごはんタイムは絆を築くチャンス！

信頼関係を築くために、ごはんとして与えるフードを手のひらから食べさせてあげるのも良い方法です。

最初は手のひらにフードを数粒乗せて腕を伸ばし、自分の身体から離して、犬の目を見ないようにします。犬が自ら歩いて手に近づいて来るまで待ちましょう。

犬が手からスムーズに食べられるようになったら、少しずつフードを乗せた手を自分の身体のそばに出して、犬が寄ってきてくれるようにしましょう。

怖がって手から食べられない場合は、フードをその犬の近くの床に数粒バラまいてあげましょう。まずは固まってしまっている身体を動かす

ことで少し緊張がほぐれる効果が期待できます。人の近くの床でも食べられるようになったら手からあげてみましょう。

犬を物理的に追い詰めないよう注意！

- ・犬を抱っこしようと部屋の隅っこに追い込む
- ・写真を撮ろうとソファに乗せて前からカメラを構えて近寄る

など犬にとって物理的な逃げ場がない環境に追い込んでしまうことは非常に危険です。どうしてもなくなった犬は攻撃行動に出たり、強いストレスを感じてトラウマになってしまったりする可能性があります。

自分は追い込むなんて意識ではなかったとしても、犬にとっては追い込まれてしまっていないか、十分に注意してあげてください。



お子さんをお願いしたいこと

わんちゃんとの接し方ルール

- ・ わんちゃんの周りでは小さな声でゆっくり動こう
- ・ わんちゃんの顔より下から手をそっと近づけましょう
- ・ わんちゃんを無理やり抱っこしたりしない
- ・ わんちゃんが寝ている時はそっとして邪魔しない
- ・ わんちゃんのケージやベッドに入り込まない



お子さんのいらっしゃるご家庭では、最初に親御さんから上記の犬との接し方ルールを教えてあげてください。

お子さんがルールを守れるようになるまでは、お子さんと犬だけを部屋に残しておかないよう気を付けてあげてください。

犬が噛んでしまったり事故になった時は、お子さんも犬も先々までトラウマになります。そして、そのルールを守りながら一緒に暮らすことができれば、お子さんは最高の犬の友達になれるはずです。

いろんな人と仲良くなろう

「オヤツをあげてもらえますか？」

家族はもちろん、子どもやご老人、その他にも郵便配達員さん、工事の人、スーツの人、ユニフォームを着ている人などいろんな人への警戒心を取り除いてあげるために、「うちの犬にオヤツをあげてもらえますか？」とぜひお願いしましょう。

警戒心から吠えてしまうようになるのを予防し、どんな人にもフレンドリーな犬に育てる近道となります。



おトイレの上手な教え方



“絶対に失敗しない環境”
を作ってあげましょう。

犬が排泄をしたくなるタイミングは一般的に「寝起き」「飲んだり食べたりした後」「遊んだ後」などで、子犬は1・2時間に1度は排泄したくなります。その子の排泄タイミングや記録して把握しましょう。

そして、排泄しそうなタイミングにトイレシートを敷き詰めたゲージに連れて行き扉を閉め、排泄したら褒めてゲージから出してあげましょう。

まずは、トイレシートの上で排泄するという経験を繰り返して習慣として根付かせます。

トイレシートで排泄をするのが習慣化してきても、お部屋のカーペットなどふかふかした素材の上で排泄したくなってしまいます。失敗するようなら、カーペットやマットは取り払って、失敗しない環境を作ってあげることが大切です。

ただし、どうしてもトイレシート以外の場所で排泄してしまうこともあると思います。もし、失敗しても、「あ——！ コラ！」などと大声を出したり、叱ったりしないで、素早く片付けてください。叱られると思って隠れて排泄するようになってしまう可能性があります。

困った甘噛みの対応方法

子犬うちは噛むものです。
おもちゃなどで気をそらして乗り越えましょう。

子犬は歯の生え変わりでムズムズすることもあり、しょっちゅう何かしらを噛みたくなるものです。人の手や足を噛まれて困る時は、おもちゃや噛んで良いタオルなどをヒラヒラさせてそちらを噛むよう誘導しましょう。

永久歯が生え揃ってからも甘噛みしてきた時は、大きな声を出さず、犬と視線を合わせず、無言で立ち上がり犬から離れたり、別の部屋に移動してしましましょう。「歯を当てると大好きな飼い主さんがいなくなってしまう」と犬に認識させましょう。



厳しく怒ってしつげると、関係性が悪くなって悪化する可能性があるがあるので注意。

迷子にならないよう充分ご注意を！

首輪が抜けたり、リードが手から離れてしまったりして迷子になってしまった子がたくさんいます。

信頼関係が築けてお散歩が上手に出来るまでは、首輪とハーネスの両方を使い、別々のリードで繋ぐダブルリードでのお散歩をお勧めします。

首輪について

首輪との隙間に指が2本入る程度の締め具合が適切です。また、首輪の接続部分がプラスチックの場合は、割れてしまうことがあるので、ダブルリングの首輪だと安心です。

100均の首輪は柔らかく緩んでしまい、頭から抜けてしまう可能性がありますのでご注意ください。また、首輪が細いと、とっさの時に掴めないことがあります。1.5センチ以上の太さの首輪を選びましょう。

ハーネスについて

ハーネスは身体にフィットさせることが重要です。仔犬の場合は、身体が柔軟なため細いハーネスは抜けやすく危険です。面積の大きいものを選びましょう。



ダブルリングの首輪



首輪と面積の大きいハーネスを装着



怖がらないように少しずつ慣らして行こう。

社会化期である生後3ヶ月ぐらいいままでに外の環境に慣れておかないと、恐怖心が強くなり、お散歩にストレスを感じるようになる可能性が高くなってしまいます。

そのため、早い時期にお散歩の練習をしておいた方が良いのですが、無理は禁物です。怖がる子に無理やり外を歩かせるとお散歩に悪い印象が残ってしまいます。まずは、首輪やハーネスに慣れる練習を室内でしましょう。そして、抱っこが好きな子であれば、まず抱っこでお散歩を試してみるなど少しずつステップを踏んであげて慣らして行ってください。



いろいろな物に慣れる練習

生涯で必要になるであろう物に子犬の頃から慣れ親しんでおこう。



お洋服

シニアになると防寒対策として洋服が必要になることがあります。まずは少し大きめのTシャツなどを違和感なく着られるように練習しておきましょう。

お風呂

シャワー浴びたり拭かれたり。

子犬のうちは皮膚に負担になるため、頻りにシャンプーはできませんが、今後のために身体を濡らして乾かす工程を遊び感覚で楽しく経験しておくことをお勧めします。オヤツを食べながら、お風呂に良い印象が残るようにするのがポイントです。

クレートや車の中でもリラックスト♪

災害時の避難に必要となる箱型のクレート練習は大切です。車などの乗り物も少しずつ無理しないように慣れていきましょう。



雨傘

傘の周りにオヤツを撒いて食べさせてみましょう。

次に傘を開いたり動かしても怖がらずにオヤツを食べられるように練習しましょう。



困ったときはいつでも

お一あみ避難所にご相談ください。

その子の性格を踏まえた上でのアドバイスやサポートをしています。

どうぞご遠慮なく連絡をして来ていただければと思います。

ご家族だけで悩まれるよりも、小さなお悩みで構いませんので、早い段階でご相談ください。その方が解決しやすい事が多いです。犬と楽しく幸せな生活が送れますようサポートさせていただきます。

どうぞよろしく願いいたします。

保健所に登録を忘れずに

狂犬病予防法により、飼い主は以下のことを義務付けられています。

- ・ 生後 91 日以上の犬を飼い始めたら、30 日以内に登録をして、犬の鑑札の交付を受けること
- ・ 毎年 1 回狂犬病の予防接種を受けさせて狂犬病予防注射済票の交付を受けること
- ・ 鑑札と狂犬病予防注射済票は、必ず飼い犬に装着させること

また、ワクチンや避妊去勢に関しては、かかりつけの獣医さんなどと相談のうえ、しっかり考えてご判断いただきますようお願いいたします。

万が一の時のために

マイクロチップの装着と、名前・携帯電話番号が書かれた(刻印された)迷子札を常に身につけておくと、災害時など離れ離れになってしまっても早く見つけれられるようになります。